

夏（6～8月）の天候

2021年（令和3年）夏（6～8月）の日本の天候は、東日本太平洋側と西日本で降水量がかなり多くなりました。北日本の日照時間はかなり多く、気温はかなり高く、北日本日本海側の降水量はかなり少なくなりました。沖縄・奄美の降水量は多く、日照時間は少なくなりました。

2021年（令和3年）夏（6～8月）の天候の特徴は以下のとおりです。

○東日本太平洋側と西日本で降水量がかなり多くなりました
東日本太平洋側の7月上旬の梅雨前線による大雨や、8月中旬を中心に本州付近に停滞した前線の大雨で、東日本太平洋側と西日本の夏の降水量はかなり多くなりました。

○北日本の日照時間はかなり多く、気温はかなり高く、北日本日本海側の降水量はかなり少なくなりました
7月後半を中心に太平洋高気圧に覆われ、その前後も高気圧に覆われやすかったため、北日本の夏の日照時間はかなり多く、気温はかなり高く、北日本日本海側の降水量はかなり少なくなりました。

○沖縄・奄美の降水量は多く、日照時間は少なくなりました
沖縄・奄美では、7月の終わりに台風第6号が沖縄付近をゆっくり進んだのをはじめ、熱帯低気圧や台風の影響をたびたび受けたため、夏の降水量は多く、日照時間は少なくなりました。

別紙（概況、統計値等）[PDF形式:696KB]

https://www.data.jma.go.jp/obd/stats/data/stat/tenko2021jja_besshi.pdf

問合せ先：大気海洋部 観測整備計画課 担当 村井(観測値や記録について)
電話 03-6758-3900 (内線 4268)
大気海洋部 気候情報課 担当 竹川(天候の解説について)
電話 03-6758-3900 (内線 4547)